

叱ること、信じること

「お母さんにあやまることあるし。帰ってから話す。」

こんなメールが高校1年生になる子どもから来たのは、先週のことでした。普段は「もうすぐ駅に着くから迎えに来て」とか「今日はちょっと遅くなるし」とかいった一方的なメールばかりで、こんなメールを送ってくるのはめったにないことでした。

帰ってきた子どもは、「ごめん、約束守れなかった。」と珍しく目をはらして言いました。驚いてわたしが「何があったの?」と聞くと、子どもはぼつぼつと話し始めました。

実は、今日学校で全校集会があったけれど、参加しなかったというのです。そのことで担任の先生から注意を受けたらしいのです。子どもは、これまでも遅刻することが多くありました。そこで、先月、わたしと子どもと担任の先生とで話し合い、今月からは遅れずに授業に出ることを約束したばかりだったのです。

「全校集会に出なかったって、どういうこと。一体何してたの!」わたしはきつく叱りました。すると子どもは、「いろいろあったの。」と小さい声でいうと、自分の部屋へ入ってしまいました。

しばらくして、担任の先生が、心配して電話をくださいました。先生の話から、子どもが全校集会に出なかった理由がやっと分かりました。

朝からクラスの友達が泣きじゃくってどうしようもない状態だったので、友達にずっと付き添っていたというのです。そして、全校集会に行こうとさそってもその友達は動けなかったので、全校集会に出られなかったということでした。

先生は、先月の約束もあって最初は厳しく叱ってしまったけれども、後で詳しい事情が分かり、子どもからもいろいろ話をしてくれたとおっしゃいました。

子どもは今日の出来事が自分の中でも整理がつかない様子で、部屋で布団をかぶって寝てしまったようでした。夕飯前になって、居間に出てきた子どもに、一方的に叱ってしまったことを謝り、担任の先生から電話があったことを話しました。

子どもは、「先生はわたしの気持ち分かってくれたからいいねん。」と言って、一緒に夕飯の支度を手伝ってくれました。

学校や家庭は、子どもたちが社会人として生きていくためのルールを身につける場でもあります。わたしも、子どもが社会に出たときに責任を持てる人間になってほしいという思いから叱ることがよくあります。ただ、今回のことで、子どもを信じることの大切さを痛感しました。

子育てに正解はないと言いますが、わたしは根っこのところで「あなたを信じてる」というメッセージを伝えることを大切にして、高校生という心が揺れ動く年頃の子どもとともに悩みながら歩んでいきたいと思っています。